

第12回 日加科学技術協力合同委員会について（結果概要）

2013年2月
在カナダ日本国大使館

1 日加科学技術合同委員会

- 日加科学技術協力協定（1986年5月署名・発効）に基づき、科学技術イノベーション政策に関する意見交換、今後の科学技術協力に関する検討等を行うことを目的として、概ね2年毎に開催される委員会。
- 第12回日加科学技術協力合同委員会が、2013年1月28日に東京（於：三田共用会議所）にて開催（前回は、2010年11月にオタワにて開催）。

2 結果概要

- 合同委員会は、丸尾眞科学技術担当大使及びピーター・マクガバン加外務国際貿易省次官補の共同議長のもと開催され、同委員会は多くの成果を挙げ成功裡に終了。

■主な参加者

日本側：外務省 丸尾科学技術担当大使（共同議長）

高橋国際科学協力室長

内閣府 匂坂参事官

ほか在カナダ日本国大使館、文部科学省、経済産業省、JSPS、JST、NEDO、関連研究機関等から、計47名

加側：外務国際貿易省 マクガバン次官補（共同議長）

フレーザー局長

在京カナダ大使館 クラグストン大使

NSERC フォルティエ理事長

ほか天然資源省、先住民問題・北方開発省、国立研究機構、関連研究機関等から、計17名

■主な成果

（1）日加ファンディング一覧の改訂・公表

- ◎「日加ファンディング一覧」の資料の改訂、及びホームページ上での公開が合意された。

（2）MOUの署名・締結

- ◎海洋研究開発機構（JAMSTEC）及びカナダ天然資源省（NRCan）との間で、海洋地球科学協力に関するMOUが署名・締結された（日本側は平 JAMSTEC 理事長、加側はレベル NRCan 局長が署名）。

（3）重点的な研究協力領域（PRCF）

ア）ナノテクノロジー

- ◎引き続き、PRCFとして推進していくことが合意された。
- ◎CIFAR（カナダ先端研究機構）とJSPSとの連携協力を引き続き検討していくことが合意された。

イ）幹細胞・再生医学研究

- ◎引き続き、PRCFとして推進していくことが合意された。
- ◎第3回日加幹細胞ワークショップを本年夏に開催することが合意された。

ウ) 持続可能エネルギー

- ◎ P R C F としての研究領域を「先端的なエネルギー・環境技術 (Advanced Energy and Environment Technologies)」に拡大することが合意された。
- ◎ エネルギー・鉱物資源分野の日加人材育成協力を引き続き推進していくことが合意された。

エ) 途上国への科学技術支援

- ◎ 有望な協力領域であるが、P R C F として廃止することが合意された。

オ) 北極研究

- ◎ 両国の高い関心が表明され、P R C F として、新たに推進していくことが合意された。

(3) 上記以外の重要な科学技術イノベーション協力

ア) 宇宙協力

- ◎ 日加宇宙協力の進捗が報告され、本年春に、Japanese Space Policy and Business Mission の訪加を調整していくことになった。

イ) クラスター連携

- ◎ 日加間のクラスター連携を進めるため、クラスター関連施策 (日本) と N C E s (Networks of Centres of Excellence of Canada) との協力を検討していくことになった。
- ◎ 加側からの、I C T 分野における第2回日加グローバルクラスター連携フォーラムの開催提案を受け、今後これを追求していくことになった。

ウ) 科学コミュニケーション協力

- ◎ 日本科学未来館及びカナダ科学技術博物館協会との間で、科学コミュニケーション協力の検討を進めていくことになった。

■ 関連行事の開催

- ・ 合同委員会サイトビジットの実施 (1月29日、於：つくば、川崎、東京)
- ・ 日加北極研究ワークショップの開催 (1月14日、於：東京)
- ・ 第2回日加ナノテクノロジーワークショップ (1月29-30日、於：東京)

3 次回の合同委員会 (予定)

- 2014年後半、又は2015年初めの開催を目途として今後調整 (次回はカナダにて開催)。(了)



JAMSTEC-NRCan 署名式の様子 (合同委員会にて)



サイトビジットの様子 (東芝科学館 (川崎) にて)